

立川市立第八小学校（2年目）

【校長】 藏重 佳治 【生徒数】 421 名 【学級数】 14 学級



次の取組へ

【課題・改善】

○健康に関する指導の課題・改善

・児童が健康について学んだことを継続して日常生活に生かされているとは言い難い。今後は、日常の行動につながる主体的な実践に取り組めるように支援していく。

○授業（体育科）での課題・改善

・1日の運動時間が60分以上となる児童の割合は50%だった。今後、体育の見方・考え方を意識させ、60%を目指していく。

○運動習慣の定着に向けた課題・改善

・体力テストの結果では、「立ち幅跳び」が全校で課題になった。次年度は全身を使った瞬発力の高まる運動を取り入れていきたい。

【実態・課題】

○肥満度による体型分類では、軽度肥満の児童が45名(10.7%)やせ児童が6名(1.4%)であった。

○むし歯を保有している児童は、45名(10.7%)であった。

○裸眼視力 1.0 未満の児童が 98 名おり、全体の 26.7%であった。

○昨年度の体力テストでは「長座体前屈」が課題で、都の平均と比べ、2 cm以上も差があった。また、「上体起こし」に関しても多くの学年が都の平均を上回らなかった。

○校内アンケートで1日の運動時間を調査したところ「60分未満」の児童が50%いることがわかった。

目標 ① 体調や生活リズムを自己管理できる児童の育成（保健・食育）
② 「長座体前屈」「上体起こし」で都の平均を目指す。（体育）
③ 1日の運動時間が60分以上となる児童の割合を60%以上にする。（体育）

【成果】

○健康に関する指導の成果

・児童自らが健康についての興味・関心をもち、改善しようとする言葉や態度が日常会話などに今までよりも見られるようになった。

○授業（体育科）での成果

・アスリートからの指導や講話を受け、休み時間に運動を積極的にする姿や体育の授業で課題解決を意識した学習が充実した。

○運動習慣の定着に向けた成果

・体力アップ週間や運動遊びを通じて、上体起こしの記録が都の平均を上回った。また、体力テストの他種目でも記録の向上が見られた。

【取組】

○健康に関する指導の工夫

・保健目標や季節の健康課題に沿った内容を、全校児童が学べるよう、掲示物やデジタルサイネージで周知する。また、長期休業明け等を利用して、家庭と連携しながら児童の健康を見守る取組を推進する。

○授業（体育科）での取組

・外部講師と連携しながら授業を行うことで、運動の楽しさを味わいながら、専門的な知識と運動の特性を踏まえた学習活動を展開する。

○運動習慣の定着に向けた取組

・体力アップ週間で行う運動を充実させ、運動の楽しさや喜びを感じることができる機会を増やし、運動時間の増加を目指す。

【取組（詳細）】

○健康に関する指導の工夫

保健目標や季節の健康課題に沿った内容を、全校児童が学べるよう、掲示物やデジタルサイネージで周知し、知識や理解が深まるようにした。毎月の指導項目が確実に理解できるよう、「ゲーム形式」「手で触れる」「カードを使う」など、様々な掲示方法の検討・工夫をすることで、どの学年でも興味をもって学ぶことができた。

長期休業中には、アウトメディアの取組を実施し、メディアとの付き合い方や時間の使い方について学校と家庭が綿密に連携して、考える機会を設定した。終了後には、助言や価値付け等のコメントを返し、今後の生活に生かせるようにした。



○授業等における、トップアスリートとの連携



アスリート派遣授業では、女子ラグビーの桑井亜乃選手を招待し、選手とレフリーの両方でオリンピックに出場したとても貴重な講話を聞くことができた。児童は、夢を諦めない心、チャレンジする姿勢を学んだ。実技授業では、スポーツを通じて、仲間との関わり方をタグ取りゲームで学び、タグラグビーの楽しさや喜びを感じることができた。

また、昨年度から継続して、立川アスレティックFCとの連携授業を行った。今年度は、発達段階に応じて求められる技能習得に向けて、教員と監督・選手で話し合いを行い、ゲームの工夫や教材教具について検討を重ね、授業計画を作成した。全クラス、丁寧な指導をしていただき、多くの児童が単元を通して意欲的に学習に取り組み、技能習得につなげることができた。

○体力アップ週間・運動遊び

昨年度は運動習慣の定着に向けて、運動遊びや家庭でも取り組める運動を紹介してきた。今年度は、体育委員会が中心となって、休み時間に取り組める運動を考え、体の動きを高める運動や短縄跳びを実施した。異学年との交流を通じて、教え合い、学び合いを深め、体力を高める環境づくりの工夫を行った。

